

# 大切な水

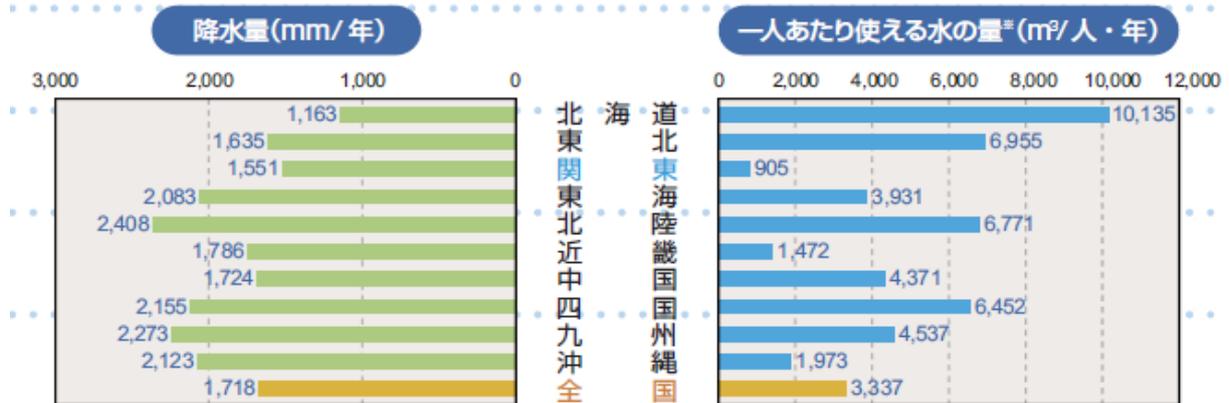
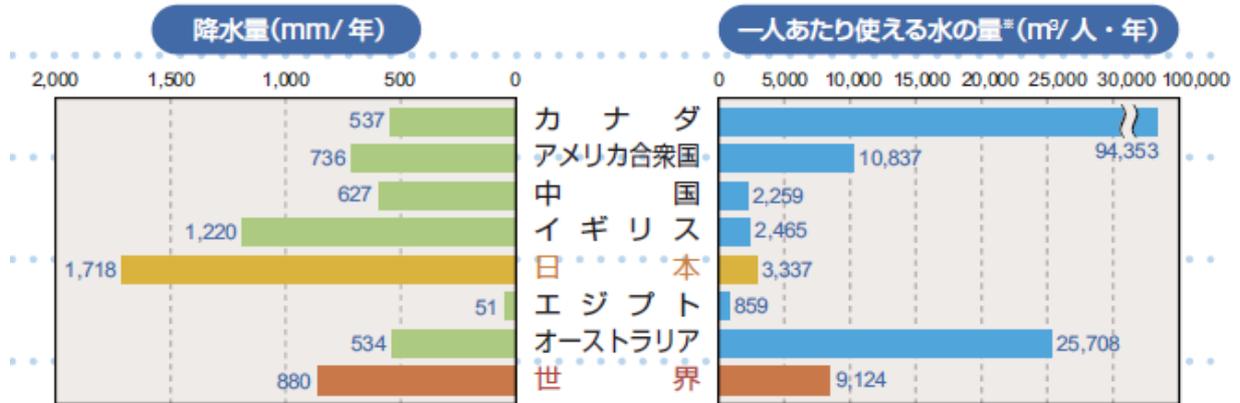
年 組 番  
名前

私たちをとりまく水の状況について、考えてみましょう。

地球には、およそ 14 億立方 km の水があります。そのうち 97 パーセントが海水で、残り 3 パーセントが淡水(飲み水として利用できる水)です。しかし、そのほとんどが南極や北極の雪や氷、深いところにある地下水で、利用することができません。身近に利用できる川や湖の水は全体の 0.01 パーセントしかありません。



地球にある水は、たくさんあるようにみえて、じつは私たちが本当に使える水はほんのわずかで、川や湖の水はとても大切です。



※使える水の量 降水量から蒸発などによって失われる量を引いた水の量  
国土交通省 平成18年版「日本の水資源」から作成

## 【日本の水】

日本は世界の中でも雨の多い国です。しかし、<sup>ちけいてき</sup>地形的に山が多く、<sup>みじか</sup>川が短いため、一人あたり使える水の<sup>りょう</sup>量は世界の平均よりも少なくなります。

## 【茨城や関東地方の水】

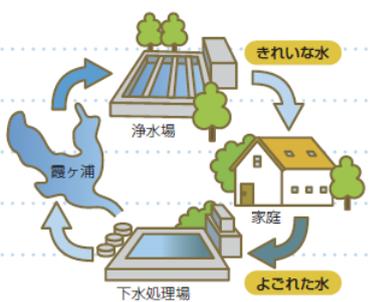
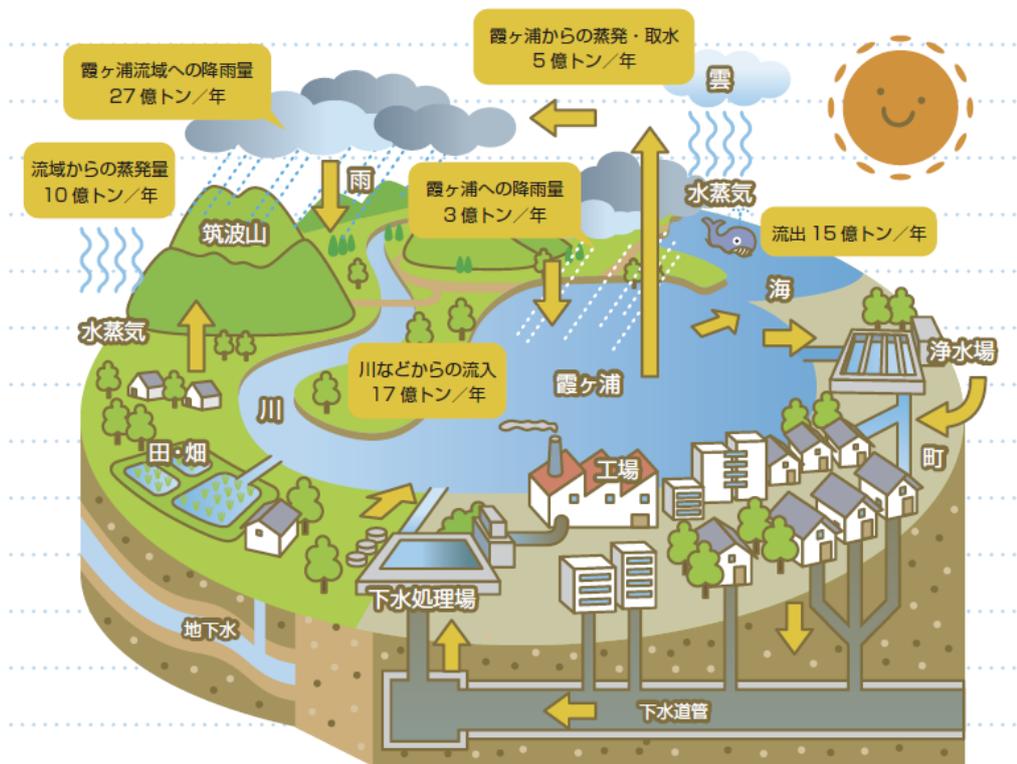
日本の中でも、<sup>かんとうちほう</sup>関東地方は特に人口が<sup>しゅうちゅう</sup>集中しているために一人あたりが使える水の量は<sup>ぜんこくへいきん</sup>全国平均よりずっと少なくなります。

## 【水の循環】

<sup>ちきゅうじょう</sup>地球上の水のほとんどは海にあります。海の水は<sup>たいよう</sup>太陽の熱で<sup>ねつ</sup>温められて<sup>すいじょうき</sup>水蒸気となり、雲をつくります。雲は雨をふらせ、雨は生き物に水を与え、<sup>ちか</sup>地下にしみこみます。一方、<sup>せいかつ</sup>生活や<sup>さんぎょう</sup>産業に使われて<sup>げすい</sup>捨てられた水も、<sup>しゅりじょう</sup>下水処理場や川をとってふたたび海に流れこみます。このように、水は海と空と陸の間を回っています。これを「<sup>じゅんかん</sup>水の循環」と呼んでいます。

霞ヶ浦からの<sup>じょうはつ</sup>蒸発・取水 3億トン/年

霞ヶ浦流域への<sup>こうりょう</sup>降雨量 27億トン/年



このように使える水の<sup>りょう</sup>量は、雨などの<sup>てんこう</sup>天候によりかわります。また、霞ヶ浦の水は、左のように<sup>じゅんかん</sup>循環（まわっている）しています。<sup>かぎ</sup>限られた<sup>しげん</sup>水資源を大切に使う<sup>どりよく</sup>努力が<sup>ひつよう</sup>必要です。